

令和6年度第1回岡山県環境審議会水質部会 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：令和6年9月4日（水）
- 2 場 所：ピュアリティまきび 千鳥（210）
- 3 出席者：
 - 委員（五十音順、敬称略）
沖陽子、小松満、杉山裕子／計3名
 - 事務局（県）
環境管理課長、事務局職員

議 題	1 部会長の選出、副部会長の指名 2 報告事項 令和5年度公共用水域及び地下水の水質測定結果
会議資料	別添資料のとおり
議事概要	<p>【議題1】 部会長の選出、副部会長の指名</p> <p>部会長に、沖陽子委員が選出された。 沖陽子部会長から、副部会長に小松満委員が指名された。</p> <p>【議題2】 報告事項 令和5年度公共用水域及び地下水の水質測定結果 （資料に基づき事務局から説明）</p>
—委員意見等—	
委員	湖沼（児島湖）のpHの環境基準適合率が58.3%と低いですが、これはどのように算出しているのか。
事務局	児島湖のpHの環境基準の範囲内の検体数を総検体数で除して適合率を算出しており、環境基準の範囲外の検体が多くなると適合率も低くなる。
委員	旭川上流の湯原ダムでBODが環境基準を超過している原因はなにか。
事務局	生活排水や農地からの流出水が主であると推測されるが、ダム湖内での植物プランクトンの増殖なども原因の1つと考えられる。
委員	地下水の継続監視調査を行っている4地点の濃度推移はどうか。また、原因が判明しているのであれば対策も検討されているのか。

事務局

各継続監視調査地点における濃度推移は横ばいであるか若しくは若干低下傾向にある。

また、原因が判明している1地点については、原因者に浄化対策を指導しているが、他の3地点については原因が判明していないため、継続監視調査により推移を注視している。